第４号様式（要綱第６条関係）

令和５年度　第２回　藤沢市立湘南台中学校 学校運営協議会会議録

開催日時　2023 年７月６日（木）14 時 30～16 時

場　　所　湘南台中学校　第１会議室

○出席委員

川 口　　昇　　地域協力者会議　会長
山 田　大 介　　多摩大学　教授
伊 藤　秀 樹　　湘南台高校　校長
伊 藤　雅 浩　　湘南台市民センター長
西 川　典 利　　日本語支援団体　代表（地区生活環境協議会）
松 原　　保　　湘南台中学校　校長
荒 川　　洋　　湘南台中学校　教頭
森　　満　弘　湘南台中学校　総括教諭（１年学年主任）
伊 藤　義　正　保護者　PTA 会長
片 岡　あゆみ　保護者　PTA 会計
加 藤　なつみ　保護者　PTA 会計

出席委員：11 名
事務局　：荒川　洋（湘南台中学校教頭）
その他出席者：　なし
傍聴人数：　なし
オブザーバー：　なし

次第

１　開　会
２　議　題
（１）不登校支援
①　湘中ルームの支援体制について

【委員】
・公民館などのツールを使うことはできないだろうか。
・ボランティアとして養成して、来てもらうことはできないか。

【委員】
・学校から、地域の人材といっても、なかなかいない。
・市教育委員会から、資料がきているが、報酬を支払って養成することはできないか
・湘中ルームの見守りをする。見守りのボランティアを募って、研修をし、シフトを組んで進めていく。
・報酬を支払う、シフトを組むなどのコーディネーターも必要になってくる。

【会長】

・郷土作りでも、地域の活動を担うボランティアも募集をしている。リタイヤされた方もなかなか定着していない。目標が定まった方が良い。

【委員】

・藤沢全体の問題でもあると思う。他の公民館でやっている事例はないか？

【委員】

・この補助金は、今年出たばかりなので、他の事例はなかなかまだない。

【副会長】

・市内の中学校でも、本校のような湘中ルームでやっているところはほとんどない。

・他校から視察もくる。地域の関わりで先進的な取り組みはない。

【委員】

・この公民館のやり方が、また先進的な取り組みになり、波及をしていくと良いのでは。

【会長】

・中学校は誰でもいいということはないのでは。今の指導は誰がやっているか。

【副会長】

・学習支援員、介助員、学生ボランティア等が関わっている。

【会長】

・どの制度を、太くしていくか考えた方が良い。

【会長】

・人数的には何人くらいを想定しているか。

【副会長】

・多くの人数が、関わってほしい。

【会長】

・いずれにしても、地域の人材を集めることは必要

・センターで声をかけていくのか

【委員】

・この場で、方向性を出していければ、後は学校と調整をしていく。

【委員】

・様々な事情をもった子どもたちがいるので、原因によっては、多くの人が関わるのが必ずしも得策ではない場合がある。

【委員】

・今の学生は、実習に行く前から学校のボランティアに関わっていることが多い。

・また、学生だとどのような支援までできるかが不透明。

【委員】

・中学校側がどこまで、求めるかにもよる。ただ単に話したいのか、何か指導を求めているのか。

【委員】見守りでいいのではないか。幅広い人材でいいのではないか

【会長】専門的にせずに、柔らかく広く浅くで募集していきたい。

② 湘中ルームに通うことも難しい生徒のひきこもり状態を解消する手立てについて

【委員】

・昔の遊びを伝書する人たちもいる

・田んぼ作りに参加させるなど

【委員】

・オンラインの活用とかはどうか

【委員】

・ニーズがあれば対応しているー

【委員】

・団地の空き部屋を、借りて子どもたち面倒をみている事例もある。

・フリースペース型、体験型など、やろうと思えばできるかも。

【委員】

・どこでつながるかは分からない。きっかけから、１歩を作る。

【会長】

・一律の対応はできない、個々の状況が違いがあるので、状況に応じて対応していく。

（２） 外国につながりのある生徒の支援

① 外国につながる生徒（保護者）に対する日本語支援・学習支援について

【委員】

・実態としては、全く話せない子どもはあんまりいない。

・ある程度日本語ができていれば、成り立つこともある。

・藤沢市に日本語を教えているところは、10 件、そのうち５件が湘南台にある。
湘南台では、「みんとも」が子どもたちを教えている。

・実際に「こんぺいとう」は大人を教えている。ただ、「こんぺいとう」をやめた人もたくさんいるので、その方々から募って中学生を教えることは可能。

・ボランティアの場合は、その先を考えて、能力をつけようとしているものもいるので、なかなか、ずっと同じひとがいることはない。

・日本語支援を行うのであれば、知り合いを頼むことはできる。

【会長】

・小学校は、国際教室があるが、中学校はあるのか。

【委員】

・中学校は、今年国際教室はない。

【委員】

・学習としての日本語を教えることはできるのか。

【委員】

・学習として教えることは、できると思う。

【委員】

・学習としては、難しい日本語も必要だと思うがどうだろうか。

・高校受験のために必要な、学習言語は難しい。

【委員】

・話し言葉と学習言語は確かに違う部分もある。

【副会長】

・現状、日本語はできても、学習が厳しい子どもたちがやはりいるので、なんとかしたい。

【会長】

・週１回、月１回というと少ないのか？

【副会長】

・たくさんやれるには、超したことはないが、週１回くらいからでもやれればよい

【委員】

・コロナが緩和され、今は学習者の数が増えてきているので、支援者が足りない。

・日本語を学びたい学生もいる。

・「みんとも」だけが NPO になる。藤沢市からの補助は２年前に教室の補助を出してくれた。

・まだまだ、藤沢市として日本語支援をもっと考えていかなければならない。

【委員】

・中学生を教えるのに、コミスクを絡めればお金がでることもある。

【会長】

・これも方向性としてどうしていこうか。

【委員】

・高校レベルの学習を教える日本語を教えていきたいのか。

【副会長】

・そこまでできれば、ありがたい。

【委員】

・本大学にも同じような、オファーがきている。

・目指す日本語のレベルはどこまでなのか。

・本学生もかかわる分には、問題ない。

② 国際理解、多文化共生社会にかかる意識の醸成について

【副会長】

・外から授業を受けることができるかどうか。

【会長】

・「ようこそ先輩」でも、国際的な視点で話してもらったこともある。

（３） コロナ禍での活動制限による体験活動・地域活動等の不足から学びの機会（体験的活動）の創出について

（４） 部活動の地域移行に伴い、受け皿となる実施主体（団体）の確保について

（５） その他

３．その他

４．閉会

以　上